

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年11月9日
【四半期会計期間】	第62期第2四半期（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）
【会社名】	原田工業株式会社
【英訳名】	HARADA INDUSTRY CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 原田 章二
【本店の所在の場所】	東京都品川区南大井六丁目26番2号
【電話番号】	03(3765)4321
【事務連絡者氏名】	取締役 総合企画部長兼管理本部長 佐々木 徹
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区南大井六丁目26番2号
【電話番号】	03(3765)4321
【事務連絡者氏名】	取締役 総合企画部長兼管理本部長 佐々木 徹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第2四半期 連結累計期間	第62期 第2四半期 連結累計期間	第61期
会計期間	自 2017年4月1日 至 2017年9月30日	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日
売上高 (千円)	21,523,028	21,345,082	42,936,695
経常利益 (千円)	1,327,112	611,900	2,350,298
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	815,473	541,457	768,406
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	256,171	3,053	706,543
純資産額 (千円)	13,189,475	13,425,342	13,639,801
総資産額 (千円)	32,240,136	33,371,745	34,330,483
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	37.49	24.89	35.33
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	40.91	40.23	39.73
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	825,533	275,566	2,531,344
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	513,902	536,961	1,058,528
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	788,835	225,744	133,385
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	5,705,756	6,914,991	7,587,100

回次	第61期 第2四半期 連結会計期間	第62期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2017年7月1日 至 2017年9月30日	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.80	13.14

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では良好な雇用情勢の継続や設備投資、個人消費の好調等により堅調に推移いたしました。欧州では雇用環境、個人消費等の改善に支えられた緩やかな景気の拡大が続いております。アジアにおいては、中国では輸出は堅調に推移したものの、個人消費はやや減速となり、アセアン地域においては、内需を中心とした堅調な景気が続いております。

日本国内経済につきましては、自然災害の影響があったものの、個人消費の持ち直しや雇用、所得情勢の堅調さを背景とした緩やかな回復が続いております。

当社グループの属する自動車業界におきましては、自動車の生産台数が北中米では減産となったものの、日本、アジア、欧州の各地域で増産となり、世界の自動車生産台数は前年同期に比べ増産となりました。

このような状況のもと、長期ビジョンである「HARADA NEXSTAGE 19」達成のための二つの柱である「競争の優位性の強化」と「最適な企業基盤の確立」を目指し、各領域における施策を推進すると共に、これまで実施してまいりました「コスト構造改革」を継続して推進し、「材料費の削減」、「工場生産性の改革」等の諸施策に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、為替の影響もあり213億45百万円（前年同期比0.8%減）となりました。利益面につきましては、販管費率は改善したものの、売上原価率が上昇したことにより、営業利益は7億26百万円（同37.7%減）となりましたが、当第2四半期連結会計期間の売上原価率は、第1四半期連結会計期間に比較しておおよそ2.0%の改善傾向にあります。また、経常利益は営業利益額の減少等により6億11百万円（同53.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億41百万円（同33.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(イ) 日本

自動車生産台数の増加を背景とした拡販活動等により、外部売上高は72億99百万円（同6.4%増）、セグメント間の内部売上高は17億86百万円（同18.0%減）、営業利益は、売上高が増加し、販管費率は改善したものの売上原価率の上昇により3億33百万円（同35.9%減）となりました。

(ロ) アジア

中国市場及びアセアン市場における自動車生産台数は増加したものの、為替の影響等により外部売上高は57億12百万円（同1.7%減）、セグメント間の内部売上高は63億3百万円（同6.2%減）、営業利益は40百万円（同88.0%減）となりました。

(ハ) 北中米

北米市場における自動車生産台数の減少等により、外部売上高は62億59百万円（同5.7%減）、セグメント間の内部売上高は37百万円（同6.1%増）、営業利益は2億25百万円（同3.9%増）となりました。

(ニ) 欧州

欧州市場における外部売上高は20億74百万円（同6.3%減）、セグメント間の内部売上高は3億79百万円（同0.9%減）、営業利益は売上原価率の改善により78百万円（同93.8%増）となりました。

なお、セグメントの売上については外部顧客に対する売上高とセグメント間の内部売上高を記載しております。

財政状態の分析

当社グループは財務体質の改善目標として営業利益率など収益性の改善ももちろんのことでありますが、当社グループの課題である経営の安全性を高めるため、有利子負債の削減、たな卸資産の圧縮、自己資本の充実等に努めてまいりました。この結果、次のとおりの財政状態となりました。

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は255億25百万円（前連結会計年度末265億62百万円）となり、10億37百万円減少いたしました。これは主に「現金及び預金」が6億82百万円、「原材料及び貯蔵品」が2億55百万円、「受取手形及び売掛金」が2億27百万円減少したことによるものであります。固定資産は78億46百万円（前連結会計年度末77億67百万円）となり、78百万円増加いたしました。これは主に「投資その他の資産」が68百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は333億71百万円（前連結会計年度末343億30百万円）となり、9億58百万円減少いたしました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は184億45百万円（前連結会計年度末186億28百万円）となり、1億83百万円減少いたしました。これは主に「1年内返済予定の長期借入金」が4億17百万円、「支払手形及び買掛金」が1億59百万円増加し、「未払法人税等」が4億93百万円減少したことによるものであります。固定負債は15億1百万円（前連結会計年度末20億62百万円）となり、5億61百万円減少いたしました。これは主に「長期借入金」が5億円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は199億46百万円（前連結会計年度末206億90百万円）となり、7億44百万円減少いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は134億25百万円（前連結会計年度末136億39百万円）となり、2億14百万円減少いたしました。これは主に「利益剰余金」が3億23百万円増加し、「為替換算調整勘定」が5億52百万円減少したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して6億72百万円減少し、69億14百万円（前連結会計年度末比8.9%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、「法人税等の支払額」7億54百万円等の減少要因がありましたが、「税金等調整前四半期純利益」7億40百万円、「減価償却費」4億21百万円等の増加要因により、2億75百万円の収入（前年同期は8億25百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、「有形固定資産の取得による支出」5億6百万円等の減少要因により、5億36百万円の支出（前年同期は5億13百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、「短期借入れによる収入」166億11百万円等の増加要因がありましたが、「短期借入金の返済による支出」165億29百万円、「配当金の支払額」2億16百万円等の減少要因により、2億25百万円の支出（前年同期は7億88百万円の支出）となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、7億17百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2018年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2018年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,758,000	21,758,000	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	21,758,000	21,758,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2018年7月1日～ 2018年9月30日	-	21,758,000	-	2,019,181	-	1,859,981

(5) 【大株主の状況】

2018年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社エスジェーエス	東京都世田谷区成城2-22-14	7,267	33.41
原田 修一	東京都世田谷区	2,939	13.51
原田 章二	東京都目黒区	2,354	10.82
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	600	2.76
原田 恵吾	東京都世田谷区	454	2.09
原田工業従業員持株会	東京都品川区南大井6-26-2 大森ベルポートB館4階	359	1.65
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	310	1.43
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	300	1.38
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	200	0.92
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	東京都渋谷区恵比寿1-28-1	180	0.83
計	-	14,964	68.80

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は小数点以下第3位を四捨五入して表示しております。

(6) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

2018年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 7,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,747,200	217,472	-
単元未満株式	普通株式 3,700	-	-
発行済株式総数	21,758,000	-	-
総株主の議決権	-	217,472	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

【自己株式等】

2018年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
原田工業株式会社	東京都品川区南大井 6 - 26 - 2	7,100	-	7,100	0.03
計	-	7,100	-	7,100	0.03

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、2018年7月1日付をもって名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,616,296	6,933,602
受取手形及び売掛金	8,039,027	7,811,173
商品及び製品	5,021,495	5,096,242
仕掛品	647,985	619,690
原材料及び貯蔵品	4,444,457	4,188,686
その他	814,547	895,075
貸倒引当金	21,181	18,860
流動資産合計	26,562,627	25,525,611
固定資産		
有形固定資産	5,071,120	5,076,018
無形固定資産	337,030	342,251
投資その他の資産	2,359,703	2,427,864
固定資産合計	7,767,855	7,846,134
資産合計	34,330,483	33,371,745
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,242,114	3,401,209
電子記録債務	701,798	774,380
短期借入金	10,420,003	10,543,433
1年内返済予定の長期借入金	112,500	530,000
未払法人税等	2,052,388	1,559,052
賞与引当金	323,342	346,147
役員賞与引当金	41,875	16,750
その他	1,734,267	1,274,154
流動負債合計	18,628,288	18,445,128
固定負債		
長期借入金	1,500,000	1,000,000
退職給付に係る負債	167,702	140,142
その他	394,690	361,131
固定負債合計	2,062,392	1,501,274
負債合計	20,690,681	19,946,403
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,019,181	2,019,181
資本剰余金	1,859,981	1,859,981
利益剰余金	9,455,477	9,779,426
自己株式	2,343	2,346
株主資本合計	13,332,297	13,656,243
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,082	39,251
為替換算調整勘定	379,882	172,465
退職給付に係る調整累計額	103,461	97,686
その他の包括利益累計額合計	307,504	230,900
純資産合計	13,639,801	13,425,342
負債純資産合計	34,330,483	33,371,745

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	21,523,028	21,345,082
売上原価	16,166,182	16,552,341
売上総利益	5,356,845	4,792,740
販売費及び一般管理費	4,190,982	4,065,933
営業利益	1,165,863	726,807
営業外収益		
受取利息	5,886	21,757
為替差益	121,157	-
受取保険金	65,930	-
その他	54,273	57,596
営業外収益合計	247,248	79,354
営業外費用		
支払利息	78,028	91,523
為替差損	-	98,476
その他	7,970	4,259
営業外費用合計	85,999	194,260
経常利益	1,327,112	611,900
特別利益		
固定資産売却益	4,507	132,035
特別利益合計	4,507	132,035
特別損失		
減損損失	1,155	991
固定資産除却損	3,248	2,097
その他	192	-
特別損失合計	4,596	3,089
税金等調整前四半期純利益	1,327,023	740,846
法人税、住民税及び事業税	562,668	319,038
法人税等調整額	51,119	119,649
法人税等合計	511,549	199,388
四半期純利益	815,473	541,457
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	815,473	541,457

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	815,473	541,457
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	288	8,168
為替換算調整勘定	564,901	552,348
退職給付に係る調整額	5,887	5,774
その他の包括利益合計	559,302	538,404
四半期包括利益	256,171	3,053
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	256,171	3,053
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,327,023	740,846
減価償却費	430,481	421,899
有形固定資産売却損益(は益)	4,314	132,035
支払利息	78,028	91,523
売上債権の増減額(は増加)	103,036	98,167
たな卸資産の増減額(は増加)	256,709	24,559
仕入債務の増減額(は減少)	215,088	202,260
その他	605,579	313,335
小計	1,164,223	1,084,768
法人税等の支払額	294,868	754,158
利息の支払額	75,494	78,479
その他の収入	31,672	23,436
営業活動によるキャッシュ・フロー	825,533	275,566
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	492,954	506,786
その他	20,947	30,174
投資活動によるキャッシュ・フロー	513,902	536,961
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	13,389,959	16,611,748
短期借入金の返済による支出	12,092,105	16,529,577
長期借入れによる収入	500,000	-
長期借入金の返済による支出	2,362,500	82,500
配当金の支払額	216,560	216,391
その他	7,628	9,023
財務活動によるキャッシュ・フロー	788,835	225,744
現金及び現金同等物に係る換算差額	131,291	184,968
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	608,495	672,108
現金及び現金同等物の期首残高	6,314,252	7,587,100
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,705,756	6,914,991

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務(移転価格税制関係)

当社の連結子会社である大連原田工業有限公司は、当社及び当社の連結子会社との取引に関し、中国税務当局による移転価格税制に係る調査を受けており、当社は現時点で発生の可能性が高いと予想される追徴税の負担見込額を未払法人税等として計上しております。現時点においては、調査の最終的な結果を得ておらず、当社が見積り計上した金額以上の負担の有無及びその金額は今後の交渉状況等によることとなります。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費に属する主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
給料	1,093,860千円	1,093,488千円
賞与引当金繰入額	134,622	123,481
役員賞与引当金繰入額	16,750	16,750
退職給付費用	41,331	43,255

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
現金及び預金勘定	5,735,571千円	6,933,602千円
預入期間が3か月を超える定期預金	29,815	18,610
現金及び現金同等物	5,705,756	6,914,991

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年6月29日 定時株主総会	普通株式	217,509	10.0	2017年3月31日	2017年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	217,509	10.0	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	アジア	北中米	欧州	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	6,858,434	5,809,949	6,641,180	2,213,463	21,523,028	-	21,523,028
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,179,890	6,722,507	35,326	382,792	9,320,517	9,320,517	-
計	9,038,324	12,532,457	6,676,507	2,596,255	30,843,545	9,320,517	21,523,028
セグメント利益	520,538	339,834	216,680	40,401	1,117,454	48,408	1,165,863

(注)1. セグメント利益の調整額48,408千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、今後の使用見込みがたない遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、「日本」が1,155千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	アジア	北中米	欧州	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	7,299,227	5,712,053	6,259,576	2,074,224	21,345,082	-	21,345,082
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,786,782	6,303,246	37,472	379,479	8,506,980	8,506,980	-
計	9,086,010	12,015,300	6,297,049	2,453,704	29,852,063	8,506,980	21,345,082
セグメント利益	333,678	40,619	225,141	78,289	677,729	49,077	726,807

(注)1. セグメント利益の調整額49,077千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、今後の使用見込みがたない遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、「日本」が991千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	37円49銭	24円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	815,473	541,457
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	815,473	541,457
普通株式の期中平均株式数(千株)	21,750	21,750

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年11月9日

原田工業株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 薬袋 政彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成田 礼子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている原田工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、原田工業株式会社及び連結子会社の2018年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。